

全国大会出場

昨年12月に古志地区内から2名の高校生が全国大会に出場されましたのでご紹介します。

ウインターカップという最高の舞台で初戦突破を目標に挑みました。結果はわずか4点差の惜敗となりましたが、最後まで諦めずチーム一丸となって松江東らしいバスケットができたと思います。応援、ご支援いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。この大きな舞台で得た経験と悔しさは次なるステップの大きな糧になります。今後も松江東バスケットならびに島根県のバスケットへの応援をよろしくお願いいたします。私は大学でバスケットができますよう頑張ります。本当にありがとうございます。

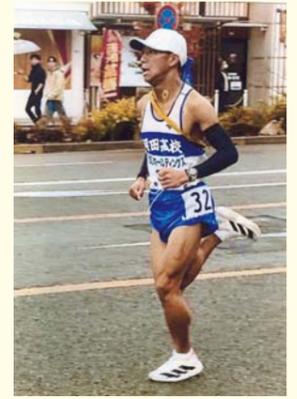
『全国高等学校バスケットボール選手権大会(ウインターカップ)を終えて』

松江東高校バスケットボール部 三谷 船(大楯町内)



『全国高等学校駅伝競走大会に出場して』

島根県立平田高校駅伝部 勝部心温(思案橋町内)



上げて次の走者へ襷をつなぐことができたことでの役割を果たし、平田高校の最高記録更新に貢献できたことは、多くの方々温かい応援のおかげであり感謝しています。

12月21日、たけびしスタジアム京都を発着点に行われた全国高等学校駅伝競走大会に出場し、6区(5km区間)を走らせて頂きました。今回の大会では、自分の力を最大限に発揮し、順位を4つ

新年のご挨拶



強く やさしく 美しく

明けましておめでとうございます。年明けとともに雪景色となり、地震も鎮まり、皆様には新たな気持ちで新年をお迎えのことと存じます。改めて日頃よりのご支援ご協力に感謝申し上げます。近年、宅地化の進展により店舗の進出や住宅の新設が見られる一方、自治協会への加入率の低迷や消防団員の確保といった課題も生じております。これらの課題には引き続き取り組んでいく必要があります。古志地区は、歴史と伝統に支えられた、優しく穏やかで住みやすい地域です。当自治協会も「地域の発展と円満を語り、区民の福祉を増進すること」を目的としており、今後も皆様と共に良い地域づくりに努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

- | | | |
|--------------|----------|-------|
| 古志地区自治協会 | 会長 | 太田 均 |
| | 副会長 | 加藤 澄子 |
| | | 山根 敦 |
| | | 勝部 祐治 |
| 古志コミュニティセンター | センター長 | 増田 健吉 |
| | チーフマネジャー | 吉井はるみ |
| | マネジャー | 飯塚さおり |
| | | 宮廻佐智子 |



二十歳の抱負



川井 晴信

私たちは本年、新成人として人生の節目を迎えました。年明けから生活や仕事の環境に変化があり、新たな気持ちで日々を過ごしております。その中で、働くことや人との関わりについて、あらためて考える

機会をいただきました。これまで成長を支えてくださった家族や地域の皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、これからは一人の大人として、周囲と支え合いながら歩んでいきたいと考えております。戸惑いや困難に直面することもあるかと思いますが、一つ一つの経験を大切に、誠実な姿勢で向き合ってください。生まれ育った地域への感謝と誇りを胸に、微力ではありますが地域や社会の一員としてお役に立てるよう努力していくことを、ここに誓います。

令和8年新年賀会



1月12日(月・祝)に58名の皆様にご出席いただきコミュニティセンターにおいて令和8年古志新年賀会を開催しました。太田自治協会会長の年頭のあいさつ、石橋広信氏、今岡久人氏、吉井安見氏の3名の市議会議員からご祝辞を頂いた後、福岡耕治出雲市環境エネルギー部長の乾杯で祝宴に入り、皆様和やかに酒を酌み交わしました。最後は佐藤内科クリニクの佐藤院長の万歳三唱で締めさせていただきました。今年も健康で過ごせることを願いながら新年の幕開けを祝いました。

フラワーアレンジメント教室開催

華やかなお花を飾って新年を迎えよう！ 事業委員会生活部長 川上 礼子

年末の12月27日、教室を開催しました。講師に瀬島豊さんを迎えて19名の参加者があり、松、千両、菊、オンシジウム等の8種の花をオアシスに挿していきまし。緑、黄、赤の花々をバランスよく生けていきます。花ばさみの軽やかな音が室内に響きます。皆さん、お正月を思い描きながら華やかな正月花の完成です。お互いの作品を見ながらの楽しい会話が聞かれます。



2月行事予定

- 4日(水)りんごちゃん教室
- 7日(土)うどん作り
- 12日(木)文書配布日
- 18日(水)元氣サロン
- 21日(土)映画上映会 (たそがれ清兵衛)
- 22日(日)男女ヨガ教室
- 25日(水)健康はつらつ教室
- 26日(木)文書配布日

ひとひら抄



外の光が、オリガラスを通して入り込むぐらいい。程よく鏡に映る自分に、問いかける。「そろそろ」「いつまで」と。「もう少し」と、答えを準備しているが、その少しの長さが曖昧だ。節目の時が、決める時。ちよつと自分に言い聞かせて、今年も幸多き年となるよう願う。玄関に生けた松竹梅の華やかさと、土間に置いた葉ボタンとビオラのリースの優しさに心癒され、時の流れを忘れてしまう。おっと、孫が作ってきたミニ門松も役を務めている。

(悦)